



学校便り 琢磨

令和4年度 第20号 R5.2.9 三豊市立詫間小学校

栄光を讃える！

今週の火曜日に表彰状の伝達を行いました。おめでとうございます。

◎2022年度交通安全支援事業		交通安全標語募集	敬称略
最優秀賞	6年 安藤 泰雅	「危ないよ スマホじゃなくて 前を見て」	
優秀賞	6年 前川虎次郎	「なれた道 ちょっとのゆだんが 事故のもと」	
優秀賞	6年 松田 歩実	「まだ行ける その判断が 命とり」	
佳作	6年 富山 由結	「点めつは 走れじゃなくて 止まれだよ」	
佳作	6年 板倉 由依	「何度も確認 心のゆとりで 事故へらす」	
佳作	6年 詫間 俐仁	「よく見てね 見えない角に 車あり」	
佳作	6年 浮田 光優	「気を付けて よそ見運転 いのちとり」	
佳作	6年 大北 蝶	「きけんだよ、ながら運転 やめようね」	
佳作	6年 草水 妃奈	「道ゆく時 スマホ見ずに まわり見て」	
佳作	6年 喜多 翔平	「自てんしゃの よそ見運転 じこのもと」	

和太鼓クラブ発表



2月7日(火)。和太鼓クラブの発表会が昼休みに体育館で行われました。

和太鼓クラブの皆さんは、木曜日のクラブ活動の時間に練習してきた成果をしっかりと発揮していました。

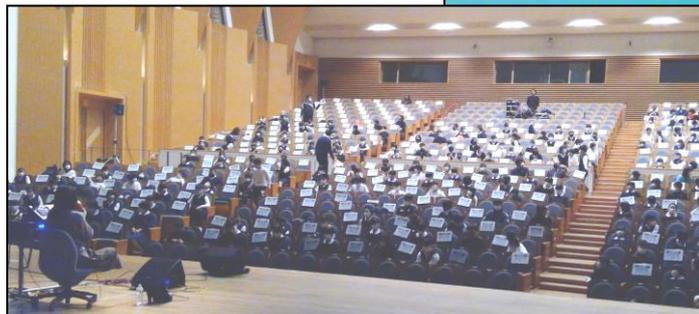
感染症対策のため、昨年度と同様に、体育館には上学年と下学年の子どもたちを別々に入れる「2回公演」でした。

体育館に響き渡る迫力ある太鼓の音。その音を超えるビシッとした態度。とても素晴らしい演奏でした。

mon さんコンサート

1月31日(火)。mon さんの生まれてきてくれてありがとうコンサートに、全校児童が招待され、マリヌウェーブに行きました。下学年の部、上学年の部に分かれて、心にしみる歌やトークを堪能しました。

希望された保護者の皆様も教職員も、もちろん子どもたちも、感動あふれる楽しい時間を過ごすことができました。



50年前の「50年後の未来予想図を描く」図工の作品

詫間小学校の皆さんは、学校で描いた絵や工作、習字などの作品をお家に持って帰った後、それをどうしていますか？私の娘が描いた作品や工作は、何と、そのまま倉庫の中に置いてあります。

私の父が塾をしようと駐車場の2階に教室のような大きな部屋を作っていたのですが、結局、塾はせずに広い倉庫となってしまいました。その場所がなければ、当然、娘の作品を家に置いておくスペースなどありませんでした。昔と違って、今は、デジタルカメラで撮影して保存ということが簡単にできますので、作品をデジタル画像にして残しているというご家庭も多いのではないのでしょうか。昔の写真のようにアルバムもいりませんし、劣化もしませんからね。

私の子どもの頃の作品は、もちろん一つも残っていません。正直、自分が子どもの頃に作った作品を見たいと思ったことは、ほとんどありませんでした。うちの娘も、倉庫に行って昔作った自分の作品を懐かしそうに見ているという姿を、私は一度も見ることがありません。ですが、もし、昔の自分の作品を見ることができれば、見てみたい物が一つあります。それは、私が小学校の3年生か4年生の頃、10歳くらいの頃の図工の時間に描いた「50年後の未来」の絵です。50年後ですから、10歳の子どもが60歳になった時、つまり、還暦を迎えた時の未来予想図を描くのです。まさに今ではありませんか。

さて、その時代に10歳だった私が、どんな未来を予想したのかは、今から50年前がどんな世界であったのかを説明しなければなかなか分かってもらえないと思います。

スマホはありません。携帯もありません。電話も私の家にはありません。高瀬の町内だけで使える有線（受話器を上げると交換手という人が何番ですかと聞いて、かけた家の番号を言うやつなだけで）だけでした。私の家の周りには全て田んぼです。エアコンはありません。ファンヒーターもありません。夏は、扇風機のみ。冬は、石油ストーブ1個と後は「れんたん」（炭火のようなもの）だけです。自動車は、そうとうお金持ちの家にはしかありません。家には、「バタ」と呼ばれていたオートバイ1台と自転車が1台だけでした。テレビは、白黒テレビが1台。ジュースは、飲んだことがめったにありません。風呂は、まきを燃やしてたいていました。だから私はいまだに「ふろをたく。」と言います。・・・という時代から、急速に高度経済成長の時代に突入していた時です。あっという間に、夢の超特急、新幹線が岡山まで開通したり、カラーテレビが普及したり、各家庭に電話が引かれたり。あの家も、この家も冷凍庫のある冷蔵庫を買ったり、何と自動車（夢のマイカー）を手に入れたり・・・。ですから、当時の担任の先生も、この先、日本がどんどん発展して便利になる時代を、子どもたちに想像してもらおうと、この授業を仕組んだのだと思います。

実は、何を描いたのか覚えていません。ですから、今、見てみたいのです。少しだけ覚えているのは、私の家の周りには、家が建ち並んで、それぞれの家に自動車があって、しかも運転はロボットがする。立体的な道路ができて、みんながヘッドフォンみたいなものをつけて電話していることです。これは、見事に予想が的中していますね。田んぼの中の一軒家だった私の家の周りは新しい家が建ち並んでいます。「コモンズみとよ」という新しい自治会ができたくらいです。何十軒も、次々と田んぼが住宅に変わっていきました。携帯電話は、ほとんどの人が持っています。高速道路もできています。ロボットではないかもしれませんが、自動運転技術もどんどん進化しています。鳥坂にもインターチェンジができました。でも、その他に、どんな予想をしていたのかが、どうしても思い出せないのです。ですから、見てみたいのです。私は、図工で絵を描くのは好きではなかったのですが、この絵に限っては、けっこう細かな所まで描いたという記憶があります。

まあ、人は、全く何も無いところから想像するというのは難しいと思います。当時の私も、何か手がかりになるものを探していたのでしょうか。例えば、テレビの未来の世界を描いた番組とか、本とかで見たことが、頭の中に残っていて、今、こんな物があればいいなあという願いが混じって、きっと1枚の未来予想図になったのではないかなと思うのです。

これから50年後の未来は、日本は、三豊市は、詫間町はどうなっていると思いますか？そんなに変わっていないのじゃないかと思う人もいれば、今よりもっともっと便利な社会になっている（空飛ぶ自動車や交通渋滞なし、普通に宇宙旅行している等）とか、案外、昔の生活に戻っているとか・・・。せっかく描いた絵は、できたら保存しておきましょう。50年後に皆さんがその絵を見た時にどんな気持ちになるか、ちょっと楽しみではないですか？